

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2016.12.23)

河口無線で開催されたエソテリック「Grandioso-K1/F1」の試聴会に行ってきました。

日時：12月23日 PM1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用機材>



エソテリック SACD プレーヤー Grandioso-K1 ¥2,160,000



エソテリック プリメインアンプ Grandioso-F1 ¥2,160,000



エソテリック マスタークロックジェネレーター Grandioso-G1 ¥1,728,000



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000 (ペア)



当日のセッティング

<使用機材>

試聴機材には写真のように、予告されたもの以外にターンベリ／GR とスーパーツイーターの Prestige GR がセットされており、まず、ターンベリ／GR への Prestige GR の付加の有無の聴き比べからスタートしました。

オーケストラと女性ボーカルで Prestige GR の付加の有無が試されましたが、確かに Prestige GR 無しではドライで素っ気ない印象が、Prestige GR 有りでは、しなやかさが向上し、レンジ感も高められる印象です。さらに、スーパーツイーターが低音に与える効果と言うことで鬼太鼓座がかかりましたが、Prestige GR 有りでは、低域の立ち上がりが向上し、低音の響き具合も変わってきます。Prestige GR はこれまでのシリーズのスーパーツイーターの Ti 振動板から Mg 振動板に変更され、内部損失の向上と振動伝達のハイスピード化により性能が向上し、44KHz まで伸びているとの説明がありました。

ここでスピーカーを BW の 802D3 に替え、同じ鬼太鼓座がかかりましたが、ターンベリ／GR よりは、全帯域にわたって強調感のない自然な音になりました。

以下、この組み合わせで聴いていきましたが、次に K1 と F1 の間の伝送の、独自の ES-LINK アナログ伝送方式の効果ということで、チェロなどがかかりましたが、確かに響きは豊かになり、生々しさが向上する印象はあります。

さらに外部クロックの効果を試みようということで、Grandioso-G1 から K1 にクロックを供給して、オーケストラと女性ボーカルでクロック有り無しの違いを聴きましたが、確かにクロック有りでは音がしなやかになり、ソフトな聴きやすい印象に変わりました。高精度 Rb クロックの採用の他、回路構成も凝ったもので、効果のあることは理解できましたが、かなり高価な製品ですので、費用対効果ということになると疑問を感じます。

ここまでで次の予定のため中座しましたが、それぞれの改善点の効果は理解できたものの、ワイドレンジ感や見通しの良い音には魅力がある一方、最後までクラシックでの適度な湿度感や倍音成分の多い楽器の質感には少し不満が残りました。恐らくは

SACD プレーヤーの Grandioso-K1 のメカの問題ではないかと推測していますが、プレーヤーを替えたり、Grandioso-F1 のフォノイコ部を通じてのアナログを聴いてみたいと思います。

以上